



平成 29 年 1 月 10 日(火)
練馬区立開進第四小学校
校長 佐々木 秀之

開四小だより

1月号

と り ど し

校 長 佐々木 秀之

あけまして おめでとうございます。

酉年を迎えました。小学校では平成 17 年(2005 年)に生まれた子供たちが年男、年女ということになります。干支の中で 10 番目にあたる酉は一年でいう 10 月にあたり、酉という字には、「果実が極限まで熟した状態」という意味があるそうです。そこから、物事が頂点まで極まった状態が酉年ともいわれています。

酉の字は酒を醸す器の象形文字で、「酒」のもとの字です。収穫した作物から酒を抽出する、収穫できる状態である、成熟した状態などを表すため、「成る」「実る」「成熟」の意味があります。こうしたことから酉を用いた字には、酒、酢、酸、酩酊、発酵、醤油などがあります。

この「鶏」が日本の文献で最初に登場するのは『古事記』で、天照大神（天照大御神）が天の岩屋戸に隠れてしまい世界が真っ暗闇になった時、八百万神が常世長鳴鳥（とこよのながなきどり）を鳴かせて、天照大神を呼び出す話があります。この「常世長鳴鳥」が鶏=ニワトリだそうです。鶏はまさに天照大神や太陽を迎えるもので、神聖なものとされていました。現在でも、神宮（伊勢神宮）の鶏は神鶏と呼ばれ、式年遷宮の際、「鶏鳴三声（けいめいさんせい）」という遷宮を象徴する儀式があります。鶏のいる神社も多く見られ、私たちの身近にいる鳥の中では最も神聖とされてきました。そして、どの鳥よりも朝一番に庭で鳴く鳥であることから縁起が良いとも言われています。また、「とり→とりこむ」ことから、商売関係に縁起のよい干支とされています。

中国では、鶏には五徳「文・武・勇・仁・信」があるとされていました。「文」は、頭に冠を持つ。「武」は、足に蹴り爪を持つ。「勇」は、敵前でも果敢である。「仁」は、食物を分かち合う。「信」は、夜を守り時を正しく告げる。鶏は夜明けに鳴くので、暗闇を払い、太陽を呼び出すパワーがあるとも。チャンスの到来を告げたり、福を招く幸運の兆しを告げるものとなっています。

今年一年、開四小の子供たちに多くの福が訪れ成熟できるよう、教職員一丸となり、英知を結集して努めてまいります。